

事例

「金銭教育」事業でめざす子ども像を共有

— 藤井寺市立藤井寺西小学校 —

1. 実践の概要

(1) 学校の様子

藤井寺西小学校は、近鉄南大阪線「藤井寺駅」の南200メートルに位置し、学校の周りには神社仏閣や歴史的遺跡が散在する。校区には、葛井寺周辺及び駅前商店街、門前町の古い街並み、公団住宅等がある。全校児童347人14学級の中規模校である。

(2) 幼小連携の取組み

① 給食交流の実施

5年1組では、この日、藤井寺西幼稚園の年長児約20人を迎えて給食交流を実施した。人数の関係から特別教室を予定していたが、園児の希望を取り入れて5年生の普通教室で実施するようになった。園児たちは、いつも幼稚園から見える5年生の教室掲示が見たかったのである。

到着してすぐ、給食の準備が始まったが、園児達は5年生の手助けを借りながら、初めてでもスムーズにできた。

最初、園児達は緊張気味だったが、給食を食べるうちに雰囲気慣れ、5年生の話しかけに笑顔で答えていた。小学校に兄や姉がいる園児は、小学生にとっても分かりやすく「〇〇さんの弟やな。」と声をかけてもらって嬉しそうにしていた。

給食が終わると、運動場に出て「しっぽ取り」が始まった。園児にもすぐに理解できて、簡単に実施できるということで5年生が決めた。園児には手加減するという暗黙のルールも決めていた。園児の逃げる速度に合わせて走りや緩めたり、しっぽを取る寸前にわざと失敗した振りをして逃がしてあげたりしていた。

藤井寺西小学校では、子ども達の自主性を生かした交流を行っている。この日の企画も5年生が朝の会などに自分たちで積極的に話し合っ



■園児達のできること、できないことを見極めながら■

園児でも少しの援助でできることがたくさんある。幼稚園では、「年長児」として頼られていた子ども達が、小学校に入学すると一番下の学年になって生活面のことまでゼロからの出発になることが多い。「何ができて何ができないか」等できるだけ具体的な子どもの実態について、幼保小の教員間で十分に情報交換しながら、なめらかな接続を図ることが大切である。少し頑張ったら超えることができ、成就感が得られるような段差は、子ども達の意欲を向上させる要因にもなると考えられる。

② 金銭教育と関連付けた幼小連携の取組み

藤井寺西小学校は、平成17年度金銭教育研究校に指定され、以前から取り組んでいた幼小連携と関連させてその取組みを進めている。

(ねらい) 様々な生活体験を通して、物を大切にする気持ちや人に対して優しく接する気持ちを持ち、そして時には我慢することなどの心情を身に付ける。

- 物を大切にする
- 限りある資源を大切にする。
- 働くことに感謝する気持ちや思いやりの心を育てる。

このように指定校事業と関連させることによって、それを契機に以前から取り組んでいた異年齢交流に加えて、めざす子ども像を共有するような幼小連携に深まってきた。

■ 幼稚園と1年生との「お買い物ごっこ」 ■

1年生が10グループに分かれて果物屋、パン屋、花屋等のお店屋さんになって、品物とおもちゃのお金を作る。幼稚園の子どもたちはそのお金を持って、1年生のお店で買い物をするのであるが、子どもの金銭感覚を養う一方で、幼小連携をすすめることができる。

その他、金銭教育の一環で「チャレンジマーケット」に取り組んでいる。起業家教育（アントプレナー教育）として、子どもたちが中心となって会社を立ち上げ、仕入れから販売まで体験する。

ここで、園児も遠足のおやつを買うという体験ができた。売り上げの一部を使って、4歳児クラスを招待するカレーパーティーも開いた。



③ その他の交流

藤井寺西小学校は、学年の垣根を越えてよく交流している。昼休みにパソコン教室を開放して情報委員会の子どもたちが1年生を教えたり、2年生と5年生がプール清掃前の「やご取り」を一緒にしたりしている。2年生が入学当初の1年生と一緒にゲームなどをして楽しむ「1年生歓迎会」もある。その他、

- 防犯教室と観劇等
- 給食交流（5年生と年長児が年2回）
- 5年生が幼稚園の年長児と一緒に給食を食べ、レクリエーションを楽しむ。
- お買い物ごっこ（1年生）
- 小学校体験入学（5年生）
- 新1年生の体験入学を5年生がサポートして実施する。
- お話会クラブによる読み聞かせ
- 幼小の合同校内研修（1年生の授業）
- 小学校1年生の研究授業を幼稚園教諭が参観して一緒に研究協議する。



2. 連携のポイント

- 金銭教育など色々な事業と幼小連携を組み合わせるによって、めざす子ども像など教育方針を幼小間で共通理解している。
- 交流はできるだけ子どもたちの創意工夫に任せて、子どもたちが成就感を持てるようにしている。